

2021 年度決算説明会 主な質疑応答

1. 民間向けエンジン事業の回復見通しは？

- ・ 需要の回復の目安となる運航時間については、2019 年度比で、2021 年度は 65%程度であったが、2022 年度は 80%程度の回復を見込んでいる。
- ・ 上記を背景に、エンジン本体の販売台数増加に伴う減益効果はあるものの、とくに回復の力強い北米市場を中心としたスベアパーツ取扱高増加を主要因とする増収の影響に加え、総費用削減や生産性改善などのコスト構造の強化等により、前年度比で大幅な増益・黒字化を見込んでいる。

2. 車両過給機事業の市場環境と業績の見通しは？

- ・ 中国のロックダウン影響の解消、また 2022 年度の後半においては半導体供給不足やサプライチェーン混乱の解消などによる自動車生産の回復と、引き続きの損益分岐点引き下げなどの採算改善による業績改善を見通している。

3. ライフサイクルビジネスへの取り組みの成果、今後の伸びについて

- ・ 原子力事業における新規規制基準対応工事が伸びた。
- ・ カーボンニュートラルに繋がる火力発電所のバイオマス燃料転換、縮小に向かう石炭火力発電所の稼働効率向上等の需要の伸びを今後も期待している。特に東南アジアをはじめとする海外におけるライフサイクルビジネスの拡大に力を入れて、「30%以上」の“以上”の上積みを目指したい。
- ・ また、こうした取り組みを通して、単なるメンテナンスやアフターサービスだけではなく、ライフサイクル“ビジネス”としてサービス・製品の質向上や新技術へと繋げていくのが、真の狙いである。

4. 固定資産売却は今後も実施するのか？

- ・ 成長事業への投資原資のために 2020・2021 年度は大型資産売却を実施したが、2022・2023 年度においては、事業自体の実力で営業利益を稼ぎ出すという道筋を描いている。
- ・ その意味で、現時点では大型の資産売却は計画しておらず、むしろ獲得した原資をいかなる形で成長事業の創出のために投資していくかが、これからの課題となる。

5. 成長事業にはどのように投資していくのか？

- ・ 2020・2021 年度では主に構想段階であった投資案件が、2022 年度に入って動き始めている。
- ・ これらは M&A 等の大型案件というより、様々な分野の新技術への投資といったものが多い。
- ・ 具体的には、アンモニア関連、メタネーション、また航空エンジンにおける複合材の開発等。

6. 「プロジェクト Change」の営業利益率の目標値について

- ・ ライフサイクルビジネスの拡大、航空事業の回復等により、収益基盤は大きく改善している。
- ・ 一方で、「プロジェクト Change」策定時には想定していなかったリスクも顕在化している。
- ・ これらのリスクへの対応策を取りながら、営業利益率の目標値へと着実に進んでいきたい。

以上